

2025 年 7 月 議事録

日時	2025年7月31日 19:30～20:30
場所	芦屋浜 センタービル3F 会議室
参加者	青木(アステム D 棟)、友田・勝山(アステム C 棟)、村山(芦屋浜第1住宅)、小黒・井上(浜風町1街区)、飯田(浜風町第 4 住宅)、新宮(浜風町第5住宅)、末友・小林(新浜町住宅)、三浦・池西・峰山。花園(ラ・ヴェール芦屋Ⅱ)、松木(ラ・ヴェール芦屋Ⅲ)、三宅・山口(アステ A・B 棟)、辛川(芦屋浜第2住宅)、河本・高木(緑第二住宅)、大田・野村(潮見南)、春木(南浜 1 街区)、寺前(市議)、川島(市議)、 合計25名
議題	1. 4月から6月までのパイプラインの運転状況について 2. リチウムイオン電池の危険性と適切な処分方法について 3. パイプラインの代替案に関する課題と皆さまのご要望 4. その他の話題

1. 4 月から 6 月までのパイプライン運転状況について

4 月～6 月のごみ搬送量は約 873,360kg で、令和 4 年度より大幅に増加している。増加の主因はごみ量の増加ではなく、搬送管の損傷による雨水混入で重量が約 1.7 倍になったためである。運転時間は前年比 5%減、電力使用量は 8%減となり、電気料金も減少傾向にある。

赤ランプ(投入不可)発生率は平均 25.5%で、約 4 分の 3 はごみ投入が可能だった。芦屋浜では月曜朝の収集量が多いが、満杯でない投入口からも吸引するため電力の無駄が生じている。

一方、南足屋浜では赤ランプはほぼ発生していない。CO₂削減のため、利便性低下を伴っても運転方法やごみ量削減の検討が必要です。

また、マナー違反による詰まりが 2～5 月に 10 件発生し、布団や雑誌など不適物投入が原因であった。新規住民や外国籍住民への周知として UR・県営住宅に注意喚起ポスターを掲示中である。

Q&A

- Q: ごみ量が増えたのは住民の排出量が増えたからか？
A: 主因は搬送管の穴からの雨水混入で、実際のごみ量はほぼ変わっていない。
- Q: 赤ランプ発生時の対応は？
A: 月曜朝は満杯でなくても全て吸引。火～金は赤ランプ箇所は翌朝収集。土曜午後は日曜午前中の排出確保のため吸引。

- ・ Q:電気代削減のためにできることは？

A:運転時間削減、ごみ量削減(特に水分混入防止)が有効。

2. リチウムイオン電池の危険性と適切な処分方法について

全国でリチウムイオン電池による火災が多発し、芦屋市でもパッカー車 4 台、委託収集車 2 台が焼損した。1 台の損害額は約 700 万円で、他都市での焼却場火災では 100 億円規模の損失も発生している。

充電式製品のほぼ全てにリチウムイオン電池が使われており、高齢者や一般住民が電池の有無を判別できない事例が多い。特に中国製の安価な製品は安全装置が不十分な場合があり、発火リスクが高い。

芦屋市の処分ルールは以下の 3 点:

- ①着脱可能電池は取り外し、指定袋で「燃やさないごみ」として出す、
- ②外せない場合は透明袋に入れ「リチウムイオン電池」と明記、
- ③膨張している場合は環境施設へ直接持ち込み。

他都市では回収ボックスの設置(大阪市 10 カ所、埼玉市 54 カ所、神戸市はスーパー設置等)事例があり、芦屋市でも啓発資料の全戸配布や回収拠点設置案が議論された。NHK の推奨として、充電は目の届く範囲で行い、就寝時の充電や強い衝撃を避け、極端に安価な非純正品は使用しないことが挙げられた。

Q&A

- ・ Q:リチウムイオン電池かどうか簡単に見分けられるか？

A:充電式機器は基本的にリチウムイオン電池を搭載している。判別困難な場合は回収ボックス等への分別を推奨。

- ・ Q:膨らんだ電池の扱いは？

A:環境施設に直接持ち込み。

- ・ Q:市での回収強化案は？

A:回収ボックス設置、啓発チラシの全戸配布、広報誌での火災事例紹介が提案された。

3. パイプラインの代替案に関する課題と皆さまのご要望

8 月からファシリテーターを交えてパイプライン廃止後の代替案を議論開始。既に高層・中層・戸建別および共通課題が整理されている。課題例として、高層住宅の投入口不足、収集車接近困難な立地、廃止後の建物内配管撤去方法、臭気・カラス被害・景観・夜間安全性などがある。

参加者からは、生ごみ乾燥機購入への補助金制度、回収車両幅に合わせた道路整備、仮置き場の設置などの意見が寄せられた。
市は全投入口 100 カ所の収集可否を確認済みであり、今後の収集効率化策や設備配置が検討課題となる。

Q&A

- ・ Q:高層住宅で特に課題となる点は？
A:投入口数が少なく、ごみの長期仮置きが必要になる可能性がある。
- ・ Q:代替案に盛り込みたい要望例は？
A:生ごみ処理機への補助金、回収ルート・車両サイズへの対応、仮置き場確保など。
- ・ Q:ファシリテーターの役割は？
A:市と住民間の合意形成を円滑に進める会議運営支援。

4. その他の話題

利用者の会ホームページでは、会議資料・議事録・各種データを PDF で公開しており、「賢いごみ処理」ページでは分別方法や捨て方の解説記事をリンク付きで掲載している。7 月の例として「ボールペンの正しい捨て方」や「保冷剤の処理方法」などが紹介された。

Q&A

- ・ Q:会のホームページで見られる情報は？
A:会議資料・議事録・運転データ・分別方法記事など。
- ・ Q:最新の分別情報例は？
A:ボールペンは金属部分が 1 割以下なら燃えるごみで可。
- ・ Q:全国のパイプライン施設数は？
A:現存は約5カ所とされる。

以上